

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

自己点検・評価委員会
(責任者名) 横尾 和久 (役職名) 自己点検・評価委員会 委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	教員は、学生一人ひとりの履修状況・修得状況や出席状況を把握・確認できる環境を整備しており、課題の提出・共有にはGoogle Classroomを導入している。 「情報科学」では、Google Classroomを活用して、科目担当教員が常に学生の課題提出状況を把握し、必要に応じて個別にサポートを行っている。 本学において、2024年度入学生を対象に「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」は、2024年度より開設した。2024年度在学生の内、いずれの学生も受講した科目は1年次対象の「情報科学」(修得率97.5%)のみであり、すべての対象科目を受講した学生はいない。
学修成果	2024年度に本教育プログラムを開講したが、初年度でカリキュラムを修了した学生はいなかった。 2024年度に開講した「情報科学」の学修成果については、科目試験を受験した学生は、基本的な学習到達目標を到達することができた。課題、レポートにおける理解度、授業評価アンケート結果による満足度および成績の分布状況を確認し、評価・改善につなげていく。2025年度は2つめの対象科目である「基礎統計学」が開講される予定である。当該科目の習熟度や授業評価アンケート結果も確認し、本教育プログラムに対して検証し、評価・改善へつなげる。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	全学的に実施している授業評価アンケートによると、以下の項目において高い評価(加重平均での値が3.50以上)を得ていることが確認できた。 ・授業の内容は、あなたにとって、興味深いものでしたか ・この授業を受けて、知識修得(実習科目は技術習得も含む)に満足していますか ・この授業を4段階で総合的に評価してください。 アンケート結果から受講学生の理解度および授業満足度が推察される。この結果や授業内で提示した課題、レポートの提出内容等を分析し、次年度の授業内容や課題内容、教授方法の適切なあり方について検討する。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本教育プログラムの意味・学修の意義については、オリエンテーションや専用Webサイトにて周知している。全学的に実施している授業評価アンケートでは、後輩等他の学生への推奨度を問う項目は設定されていない。今後、本教育プログラムの科目を対象とした独自のアンケートで学生の内容の理解度の把握、後輩学生への推奨度等の調査を実施していくことを検討する。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本学では、本教育プログラムの申請科目はすべて必修科目として定めているため、全学生が履修することとなる。対象科目の授業内やガイダンスに合わせ、数理・データサイエンス・AI教育の重要性を伝えるとともに、本学では、パソコン必修化としているため、他の授業でもデータ解析等の内容を充実させていく受講への意識を高めていく。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本教育プログラムは令和6年度に開始したばかりであり、本教育プログラムを受講した学生の卒業は令和9年度以降となる。令和10年度以降、キャリア支援課にて実施する卒業アンケートの調査等において、教育プログラム修了者に対する企業等における評価や活躍の状況を聴取していく等、評価方法を検討する。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	今後、大学の数理・データサイエンス・AI教育への期待、協業の希望等について、関係する医療分野の関係者からヒアリングを実施し、得られた意見は、今後の地域連携体制の構築や、カリキュラムや教材の改善の参考とする。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	「情報科学」では、Webで公開されている興味のある身近なデータを入力し、Excelを用いて処理や加工を行い、データの分析を行い、可視化した分析結果を検討するといった実践を通して、データサイエンスを学ぶことの楽しさや意義を学生がより理解できるようにしている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	学生の科目の修了状況や、データサイエンスの理解を深める課題の解答状況、受講者の授業評価アンケートの結果や本教育プログラムに対するアンケート結果をもとに分析を行い、データサイエンスの理解を深める「分かりやすさ」の観点から教材や授業実施方法の改善策を検討していく。また、教員相互の授業参観の実施や教育手法に関する研修会の開催、教育効果の検証など、FD研修の一貫として実施し、授業の水準の維持・向上を図る。